



本号の掲載記事

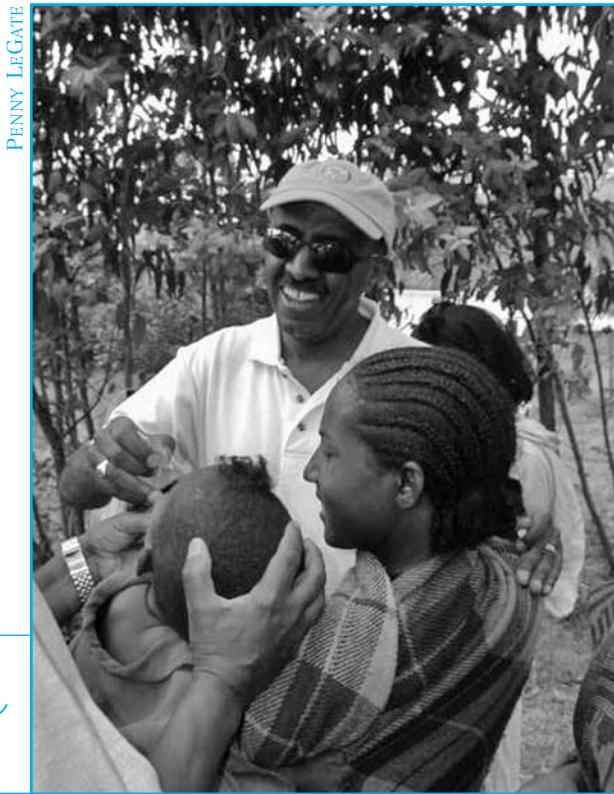
エジプトとニジェールがポリオ蔓延国のリストから外されました。詳しくは第7ページをご覧ください。

ロータリアンがアフリカで見るポリオ撲滅活動の幅広い成果

2005年末、ポリオと闘う2万人以上のアフリカのロータリアンならびにその世界中の協力者が笑みを浮かべるのには、十分な理由がありました。それは、11月はじめ、世界ポリオ撲滅推進計画により、6月以来、ベニン、ブルキナファソ、カメルーン、中央アフリカ共和国、チャド、コートジボワール、ガーナ、ギニア、マリ、トーゴにおいて、症例が1件も報告されていないことが発表されたからです。

全国予防接種日をはじめ、ポリオ撲滅の唱導や社会動員活動に捧げてきた時間と資金が結果となって表れたのです。アフリカの12カ国以上にあつという間に広がった2003年のポリオ大発生地震の震源地となったナイジェリアでは、政治的、宗教的、伝統的な指導者たちが活動を支援しました。一例として、ナイジェリア、カノのイスラム教最高指導者、アルハジ・アド・バイエロ氏は、一般市民に対し、子供たちをポリオ予防接種センターに連れて行くこと、またはワクチンの予防接種員の自宅訪問を迎え入れるよう訴えたのです。

9年間エチオピアにおいてポリオの予防接種を行い、世界の保健分野における英雄とされたロータリアンのエズラ・テショーム氏。



PENNY LEGATE

このような高いレベルの支援により、保健関係者やボランティアが、何千万人もの子供たちに経口ポリオ・ワクチンを投与することができました。また、11月に合同で実施されたアフリカの全国予防接種日だけで、5,000万人以上の児童に予防接種を与えることができました。

ポリオとの闘いにおいてロータリーのボランティアが見せている熱意を考えれば、その中の一人であるエズラ・テショーム氏が、ニューヨークの世界保健サミットにおいて英雄として表彰されたのは驚きではありません。故郷エチオピアでの予防接種に9年間参加したことにより、10名のうちの一人として、タイム誌の「世界の保健英雄」賞を受賞した米国シアトル在住のテショーム氏も、自分が参加してきたことをごく当たり前の行動であると考えています。

この栄誉は自分だけで勝ち取ったものではありません、と控えめなテショーム氏は述べます。むしろ、「エチオピアの子供たち、これに関わってきた多くの医療関係者、そしてエチオピアをはじめ世界の子供たちを助けるために一生懸命に活動する何万人ものロータリアンを代表して」受賞したのだということです。

マルメ/コペンハーゲン国際大会を忘れられないひとときに

ロータリーの第2世紀目初の国際大会をいかに思い出に残る大会とすることができるでしょうか。ホスト組織委員会主催のスウェーデンのマルメとデンマークのコペンハーゲンで行われるチケット制行事に出席する計画を立てることから始めましょう。

国際大会ワールドカップ・ゴルフ (6月8日～9日)：マルメの近郊バースベック (Barsebäck) カントリークラブにて、ロータリアンによる2日間のトーナメントが行われます。

ノーベル晩餐会 (6月8日～10日、12日)：460年の歴史を誇るマルメ市庁舎で本物のメニューや食器を使用し、スウェーデンで毎年行われているノーベル晩餐会を再現します。

国際大会マッチ・レース (6月10日)：コペンハーゲンのオーレスン海峡で行われるボート・レース。航海が好きなロータリアンは見逃すことはできません。

チボリの一日 (6月10日)：160年の歴史を持つおとぎ話の庭がある魅惑的なチボリにて、劇や、クラシック音楽とジャズのコンサート、パレード、花火などを堪能していただきます。

スウェーデンの夕べ (6月13日)：スウェーデンの4大祭りでは、伝統的なバイキング料理と飲み物をお楽しみいただけます。

チケット情報は、www.rotary.org/languages/japanese/events/index.htmlもしくは www.riconvention2006.org (英語) をご覧ください。

愛の込められた奉仕でスリランカの新築家屋の土台を築く

2004年12月24日に南アジアを襲った津波災害から1年以上が経った今も、何百万人もの人々が生活の立て直しに苦労しています。被災者人口が850,000人以上に上ると国連開発プログラムが推定しているスリランカでは、何十万人もの住民が常設の簡易住宅にも住めない状態です。

このような状況の中、2005年10月の終わりに、米国メイン州ロックランド・ロータリー・クラブの



ALICE HENSON / RI

会員11名が、国内の西南部沿岸において新しい家を必要とする家族に手を差し伸べました。これらのロータリアンは、地元「ハビタット・フォー・ヒューマニティ」のコーディネーターの指導の下で訪問チームが建築プロジェクトに参加できる「ハビタット・フォー・ヒューマニティ地球村プログラム」を通じて活動しました。

「ロータリーの標語は『超我の奉仕』、ハビタットの標語は『行動に愛を』です」と、ロックランド所属のロータリアンで、ハビタットの元職員でもあり、今回の旅の調整役となったローラ・ジルストラさんは述べます。「このような協同関係はごく自然なことだと思います。実際に再建の現地へ行って、当地で活動する機会があると聞いた時、この協力関係が正しいものであると誰もが確信したのです」

ロックランドのロータリアンは、この1週間の活動のための募金活動を数か月に渡って行いました。スリランカに滞在中、一行は地元労働者や将来その住宅の住民となる人々と手を貸し合って作業にあたりました。日は長く、太陽も焼きつくやうでした。このような状況でも、一時的なわか雨によって生気を養いながら、作業の大半を過ごしたバリピティヤの地域社会に末永い恩恵を残すことができました。

ハビタット・フォー・ヒューマニティの津波の災害救援活動と協力し、スリランカの猛暑に挑むローラ・ジルストラさんと他のロックランド・ロータリー・クラブ(米国メイン州)の会員

「ただ単にお金を寄付することだけにとどまらず、人々の生活に直接、影響を与えることができました」とロックランドのロータリアン、ブレイン・カーティスさんは語ります。「この機会が訪れた時、『外に出でて、社会に奉仕せよ』というクラブの標語にまさしく合っていると思いました」

津波救援活動を進めるロータリアン

世界中のロータリアンが、津波の被害を受けた南アジアの被災地域の復旧活動を引き続き支援しています。以下にこれらの活動例をご紹介します。

- ・シアトル・ロータリー・クラブは、インドネシア、バンダアチエの新しい青少年センターのために米貨20,000ドルを寄付しました。アチエの大学生たちの集いの場となった同センターでは、英語のクラス、コンピュータのクラス、伝統的な踊りの指導などを受けることができます。また、家屋を失った学生のための学生寮も提供しています。
- ・ドイツのミュンヘン・インターナショナル・ロータリー・クラブは、壊滅した地域に276軒の家屋と道路を建設する大規模な推進計画の一環として、タイ、クラビのBaan Pru-Teowに3軒を建築するための資金を提供しました。プロジェクトには、世界中のロータリアンから160万ユーロ(米貨1,925,386ドル)以上の寄付が集まりました。
- ・スリランカのロータリー・クラブは、沿岸地域の被災地に25の学校を建てる計画を立案中です。「学校再復興」プロジェクトには、英国およびアイルランドの国際ロータリーより英貨635,000ポンド(米貨1,117,260ドル)が寄せられ、また、ユニセフからの支援も受けています。

会長のメッセージ



RI理事会が歴史的な ロータリー拡大へ

2005年11月のRI理事会会合では数多くの決定が下されましたが、その中には少なからず歴史的なものが含まれていました。

まず、理事会は2006年7月1日をもって、ロシア西部に新しい地区を編成することを決定しました。1939年に第二次世界大戦が勃発する以前、ロータリー・クラブがヨーロッパ諸国のほとんどで活動していた頃、ロシアにはロータリー・クラブが存在しなかったことを思うと、これは歴史的な決定と言えます。

理事会は、また、拡大活動の門戸を中国へ開くことも決定しました。ロータリーはすでに香港、マカオ、モンゴリアに存在していますが、中国本土においては北京と上海に仮クラブが2つあるのみです。長い間、加盟を望んできたこれら2つのクラブの夢を実現させる唯一の道が中国への拡大ですから、この理事会の決定もまさに歴史的と呼べるものです。

RIは1940年にキューバのハバナで国際大会を開催しており、1922年から1954年にかけては5名のキューバ人が理事を務めています。しかし、キューバにロータリー・クラブが存在していたのは、1970年代の終わりまでです。今こそロータリーがキューバへ戻る時期がやって来たと感じた理事会は、もう1つ歴史的な決定を行うことになりました。

1999年、国際連合はコソボに国連コソボ暫定行政ミッション (UNMIK) を設立しました。2001年以来、多くのロータリアンがこの地でのロータリー・クラブの設立をRIに呼びかけてきました。これに応えるため、理事会は、現在もUNMIKの統治下にあるコソボへの拡大に乗り出すことを決定しました。

これら4つの歴史的決定が奏でる四重奏は、理事会が第二世紀への旅立ちの決意をロータリー世界に示す序奏です。これらの決定は、また、ロータリーが他の国々へも拡大活動を広げていく基盤を築くものです。世界中を旅する過程で、私はベトナム、ラオス、北朝鮮、その他ロータリーの存在しない地域へ足を踏み入れてほしいという要請をいくつか受けてきました。RIが前進すべく、今、扉は解き放たれた、というのが私の見解です。



超我の奉仕

Carl Wilhelm Steinhilber
カール・ヴィルヘルム・ステンハマー

ROTARY WORLD

国際ロータリーの使命は、加盟クラブによるロータリーの綱領遂行を支援することです。すなわち、

加盟クラブの結束を育むことによって、

世界くまなくロータリーを充実、発展させることによって、

ロータリーの活動を

世界中に知らせることによって、

国際規模の管理体系を用意することによって、

ロータリー・ワールドは9カ国語で年4回、

7月、10月、1月、4月に発行。

発行者：国際ロータリー、

One Rotary Center, 1560 Sherman Avenue,

Evanston, Illinois 60201-3698, U.S.A.

ファックス：1-847-866-9732

電話：1-847-866-3000.

Eメール：dean.golemis@rotary.org.

RIウェブサイト：www.rotary.org

購読料：年間米貨5ドル

住所変更は古い住所のラベルに新住所（郵便番号含む）とクラブ名を明記して返送、また、Eメールアドレスの変更は data@rotary.org に送信してください。

本号はロータリー・ワールドの2006年4月号第12巻、第4号 (ISSN 1079-7718) です。著作権 © 2006年国際ロータリー

ロータリー刊行物の編集者は、自由に記事を再掲することができます。

編集責任者：Janis Young

編集主任：Dean Golemis

グラフィック・デザイン：高橋玲子

本号編集関係者：

Abby Breitstein, Kelly Doherty, Beth Duncan,

Ryan Hyland, Vukoni Lupa-Lasaga,

Dan Nixon, M. Kathleen Pratt,

Maureen Vaught.

RI会長にウィルキンソン氏を指名

12月5日、国際ロータリー (RI) 世界本部で開かれた2007-08年度RI会長指名委員会において、カナダ、オンタリオ州トレントン・ロータリー・クラブ会員のウィルフリッド J. ウィルキンソン氏が選出され、同氏は2006年1月1日をもって、会長ノミニーとなりました。

ウィルキンソン氏は、公認会計士事務所ウィルキンソン・アンド・カンパニー社の共同設立者です。2001年に退職後、カナダ・クインテ・パレエ・スクールの常任理事ならびに、全米法廷会計士協会のカナダ担当コーディネーターを務めています。

1962年以降のロータリアンであるウィルキンソン氏は現在、ポリオ・プラス全国提唱顧問およびポリオ・プラス・パートナー・グループのメンバーとして活躍しています。これまでは、地区ガバナー、国際協議会グループ討論リーダー、諮問グループ・メンバー、委員会委員および委員長、実行グループ・メンバー、財団管理委員、理事、副会長を歴任しました。最近では、2005年シカゴ国際大会委員会委員長およびRIのアフ



ウィルフリッド J. ウィルキンソン氏

ガニスタン難民救済プロジェクトで副委員長を務めました。

指名委員会委員は、次の各氏です (敬称略)：アブラハム・ゴードン (米国、委員長)、エドガー C. ハッチャー・ジュニア (米国、幹事)、グスターフ A. アンノッキー

(オランダ)、ジャック・ベルテ (フランス)、ジョン T. ブラウント (米国)、アントニー L. プロキングトン (米国)、ヒー・ピョン・チェ (韓国)、グスタボ A. デ・オバルディア (パナマ)、エドガー D. ギフォード (米国)、ゲルソン・ゴンサルベス (ブラジル)、ラファエル G. ヘチャノバ (フィリピン)、今井鎮雄 (日本)、黒田正宏 (日本)、ヨルマ・ランペン (フィンランド)、デイビッド D. モルガン (ウェールズ)、カール S. ローゼンバウム (米国)、O.P. ヴァイシュ (インド)。

退会防止に取り組む試験的プロジェクト

会員をしてロータリーにとどまっていたいと思わせる要素は、果たして何でしょうか。この質問の答えを見出そうと、退会防止試験的プロジェクトに参加しているのが全世界102のクラブです。2003年に開始されたこのプロジェクトは、6月30日をもって終了する予定です。参加クラブは、適切な会員候補の特定と勧誘、オリエンテーション、入会式、新旧両会員の継続的教育に関する指針に従うものとされています。

昨年10月に集まった53クラブの代表は、会員増強・退会防止委員会のリーダーならびにRI会員増強部職員との会合において、問題点について討議したほか、成果を挙げている退会防止活動について発表しました。参加者からは、定期的な会員満足度調査とニーズ査定を実施し、その結果を基に改善すべき点を改める他、会員に自分た

ちの関心事について発表してもらったり、会合の後に隔月でコンサートや映画会などを催したりしたらどうかという助言がありました。参加者はまた、指針に従い、クラブ、地区、RIの情報を全会員に伝えることの重要性を強調しました。

米国イリノイ州にあるバーリントン朝食ロータリー・クラブの会員、ジョン・メイヤーさんによると、同クラブでは、「大切なことは何か、活動状況はどうか、改善すべき点は何か」を明らかにするために、「退会会員アンケート」を用いているということです。アンケートの結果に基づいて、クラブは例会の見直しを行いました。他に役立つ資料として、新会員の教育に使用できる「ロータリーの基本知識」(595-JA)や、移転する会員の情報を移転先の地域社会に存在するクラブへ提供するための「ロータリアン移転書式」(Rotarian Relocation Form、英語) などがあります。これらの資料にあわせて、評価に役立つその他の資料や支援源もwww.rotary.org/languages/japanese/からダウンロードすることができます。

会員の継続的な参加を促すカギは教育にあると、クリス・オファー会員増強・退会防止委員会副委員長は言います。「入会前からロータリーについて教えられ、入会后に適切なオリエンテーションを受けた新会員は、日ごろからクラブがロータリー教育を提供し続けていけば、クラブにとどまるものです」

2005年6月30日現在、参加クラブは平均会員維持率83パーセントを誇っています(最低53パーセントから最高100パーセントまで)。

クラブ相談室

問：新会員が活動やプロジェクトに参加するよう、クラブにできることは何かありますか。

答：ロータリー・クラブの多くは新会員説明会やオリエンテーション・プログラムを実施し、新会員が容易にクラブに溶け込めるよう努力をしています。クラブの要望に応じて、新会員のためにこうしたプログラムを検討するのも一案です。プログラムを通して新会員を温かく迎え入れ、仲間の会員と打ち解けやすくすることで、クラブの活動やプロジェクトにも参加しやすくなります。新しいロータリアンには、クラブ、地区そして国際ロータリーのプログラムへ参加できるよう奉仕の機会やその方法を提示することをお勧めします。さらに、RIのおおまかな構造やリーダーとしてそこで活躍できる機会についても紹介してください。オリエンテーション・プログラムを実施するためのさまざまな方法は「新会員のためのオリエンテーション」(414-JA) に説明されており、この出版物では新会員教育の各段階に合わせて具体的な提案や適切な参考資料などが紹介されています。

リーダーシップ・プランによりクラブ構造と運営を手直し

ロータリーは、ロータリー・クラブの管理的枠組みとして推奨されているクラブ・リーダーシップ・プランを通じて、草の根レベルで業績を向上させる方法を探しています。

効果的なロータリー・クラブのベスト・プラクティスに基づき、クラブ・リーダーシップ・プランには、年次目標と長期目標を立てて調和させ、定期的にクラブ協議会を招集し、すべての会員のクラブ活動と親睦への参加を推進することが含まれています。また、円滑な連絡伝達 (コミュニケーション) の方法と、指導力の継続性を維持し、定期的かつ首尾一貫した研修を提供することなども含まれています。

独自の内容へと修正することができるこのプランは、ニーズを満たすために、すでに多くのクラブによって採用されています。三重県の鈴鹿西ロータリー・クラブは、昨年7月に本プランを実施し始めました。

クラブの広報委員会委員長である松本裕夫氏によると、本プランを取り入れる前に、これによって得ることのできる恩恵についてクラブ会員の間で話し合いを設け、会員は皆、プランを持つ

継続性と柔軟性に特に魅力を感じたということでした。

また、簡素化された委員会構成により、クラブの事務処理が能率的になり、元、現、次期指導者間の協力関係も高まることを指摘しています。さらに、さまざまな指導者チームがクラブの業績を評価することができ、互いに協力する意欲も高められるだろうと述べています。

「委員会が重複してしまうのではないかと心配せずにプロジェクトを実施することができます」と松本氏。「プランのおかげで、クラブは、地域社会のニーズに取り組むようなプロジェクトを数年間に渡って継続することができます」(記者注：引用は英語からの翻訳)

リーダーシップ・プランを採用してから、クラブは、プランの恩恵を最大限に引き出し、プランの導入による変更に対して起こり得る会員の反発を少なくするために、会員のための研修を実施しました。

「今では、皆、クラブを邁進させようと意気揚揚としています」と松本氏は語ります。

クラブ・リーダーシップ・プランまたは関連資料のダウンロードは、www.rotary.org/jump/clubplan_jaから。

長期計画委員会の定めた次のRI組織全体プロジェクトの基準を理事会が承認

RI理事会は、2005年11月の会合において、長期計画委員会の打ち出したいくつかの推奨事項を承認し、この中には、ポリオ撲滅を達成した後に取り組むことになるRIの組織全体プロジェクトの選択基準の採択も含まれていました。

新しい組織全体プロジェクトに求められる基準とは、世界中のロータリアンが意義ある形で参加し、その成果を測定することができるよう、一定の時間枠を定め、世界各国の高い関心を惹く要素を備えていることです。このほかにも、このプロジェクトには、クラブレベルの支援と実施に結びつき、立ち上げる前からロータリアンの間で高い関心を集めていることが必要とされ、現存のロータリー財団資金の募金を妨げることのないものが求められます。

「ニーズのあるプログラムの多くは、いずれも資金や援助源を必要としています。私たちの主眼は、この中から1つのプログラムを選ぶというよりは、むしろ、選ぶための方法を決めるための指針を定めることにありました」と、バリー・トンブソン委員長は語ります。

理事会は、ボランティアとRI職員から成る長期計画実行チームを2007年6月30日までに段階的に廃止し、その責務を常設のRI委員会に移管するという同委員会の推奨も承認しました。理事会は、ポリオ撲滅という第一の目標の責務を、現実行チームからインターナショナル・ポリオ・プラス委員会へと切り替えることで、この手続きを開始しました。

最終的に理事会は、2006-07年度より3年毎に長期計画を徹底的に検討することを要請しました。これで柔軟性と説明責任の両方が助長されるだろうと、トンブソン委員長は言います。「状況は変わるものですから、何がうまくいっているのか、また、改善すべき点はどこかを把握した上で、柔軟性を持って対処する必要があります。実際に行われていることが計画に沿っているかどうかを確認しなければ、計画など立てただけ無意味です」

ロータリー100周年を効果的に利用した広報賞受賞者たち

ロータリー100周年記念という広報の機会はその頻繁に訪れるものではありません。2004-05年度RI広報賞を受賞した123のクラブのうち、半数近くがこの絶好の機会を利用して活動を行ったのも驚くべきことではありません。

世界中30カ国以上から選ばれた受賞者たちは、ロータリーへの認識と理解を高めるため、多くは100周年に重点を置きながら、さまざまな推進活動を行いました。

インド、タミル・ナドゥ州のコインバトール・アップタウン・ロータリー・クラブは、2005年コヴァイ・フラワー・ショーにてタミル・ナドゥ農業大学との共同プロジェクトを行い、200,000人以上の人々を魅了しました。大学の植物園で行われたこの花のショーは、ロータリーの創立記念日に合わせて2月に開催されました。

その溢れる花の展示の中に設置されたのは、クラブの数多くの奉仕プロジェクトの写真を飾ったテントでした。また他の展示エリアでは、クラブ会員が水保全や雨水の貯留についての情報を提供しました。

2004-05年度クラブ会長のP. ヴェリンジリ氏によると、この行事は「非常に大きな広報効果」を生み、ロータリーの



インド、タミル・ナドゥ州にて、ロータリー100周年を記念して行われ、200,000人以上の人々を魅了したフラワー・ショー

奉仕に関するニュースは「ほぼ100パーセント」コインバトールとその周辺地域へと広めることができたそうです。

キプロスのニコシア・サラミス・ロータリー・クラブでは、ロータリーの歴史や100周年記念祝賀について地域社会へ広報するにあたり、100周年が推進のきっかけとなりました。キャンペーンではRIのさまざまな推進ビデオをギリシャ語に翻訳し、キプロスとギリシャ国内のテレビ放映用としてビデオを配布しました。

アルゼンチン、コルドバのマイプ・ロータリー・クラブ会員は、恵まれない子供たちのために、100時間以上にもわたっておもちゃ、キャンディ、粉ミルク、おむつ、医療品を集めました。この「100時間の団結」イベントには50,000人以上が参加し、地元のラジオ局やテレビ局、また新聞などがその様子を報道しました。

2005-06年度広報賞は、地区ガバナーが5月15日までにRIへ推薦書と必要書類を提出しなければなりません。詳細はwww.rotary.org/programs/awards (英語) をご覧ください。

ロータリー・ワールドの定期購読

クラブ役員として、または地区の指定でロータリー・ワールドを受け取っている方々は、年間米貨5ドルの購読料をお支払いいただければ、2006-07年度にも引き続き本紙をお届けします。現・元RI役員の方々は、データサービス (Eメール: data@rotary.org、ファクス: 1-847-733-9340) までご要請いただければ、今後2年間、無料で本紙を進呈いたします。氏名、地区番号、ロータリー・クラブ名 (分っている場合は会員ID番号) を付記してください。

4月: 雑誌月間

刊行物や電子メディアを通じて人々を動かすロータリーのメッセージ

毎月ザ・ロータリアン誌では目を奪うような写真と共に、感動的な特集記事や役立つ情報を伝える記事の数々を掲載しています。しかし、紙面に限られているため載せきれない記事があり、次号まで待てない性質のものもあります。このような記事は、RIのウェブサイトでご覧いただけます。

www.rotary.org/newsroom (英語) からは、ウェブのみの最新のニュースが読めるほか、世界中のビデオもご覧いただけます (日本語のページでは、一部のニュースをお届けしています)。このほか、写真エッセイや意識調査なども掲載しています。

「読者がプロジェクトやクラブの改善に向けて情報を探す際に役立てていただける検索可能なアーカイブも、現在制作中です」と、ザ・ロータリアン誌のシニア・エディター、ジャニス・チェインパースは語ります。「対話型の機能のおかげで、編集側も以前より読者のことがわかるようになってきています」

世界のロータリアンの半数以上が、30あるロータリー地域雑誌のいずれかを購読しています。これらの地域雑誌とザ・ロータリアン誌が一体となって、「ロータリー・ワールド・マガジン・プレス」と呼ばれています。ザ・ロータリアン誌と同様、地域雑誌の多くはオンラインでもその内容を紹介しています。

「雑誌編集者たちは、サイトの更新に力を入れ、ウェブでしか読めない最新の記事や対話型の特集なども追加するようにしています」とチェインパース・シニア・エディター。「まめに更新することで、会員だけでなく、将来会員になるかもしれない人たちにとっては、常に興味深い内容を提供し続けることができると思うのです」

また、ザ・ロータリアン誌の内容に基づき、DVDシリーズ「RVM: ロータリアン・ビデオ・マガジン」が制作されています。世界中のロータリアンによる感動的な奉仕活動の話題をドキュメンタリー形式で紹介するほか、フォトエッセイ、ロータリー指導者からのメッセージ、RI国際大会ハイライトなど、さまざまな特別付録も収録しています。

ロータリアン・ビデオ・マガジンの購入をご希望の場合は、www.rotary.org の「Shop」 (英語) をクリックしてください。



ロータリアン・ビデオ・マガジン第2号では、米国のロータリアン、ドリサ・シモンズさんの友情によって開花されたニカラグアのレオンに住むエベリン・ウルピナ・サバタさんの人生が紹介されています。

事務総長の覚書



青少年保護の基準をロータリアンが定めよう

青少年の育成に対するロータリーの熱意ある取り組みは、組織の誕生にまでさかのぼるほど長きにわたって育まれてきた伝統です。青少年交換、インターアクト、RYLAといったプログラム、あるいは学校での個人指導プロジェクトなど何らかの形で、大多数のロータリー・クラブが青少年のために奉仕しています。青少年に関連したプログラムやプロジェクトにおいて、ロータリアンが最も高い水準を設け、それに確実に従うようにするため、2002年、RI理事会は「青少年と接する際の行動規範に関する声明」 (左の欄を参照のこと) を採択しました。

青少年に関与するロータリアンは彼らを助けようと努力している人々がほとんどで、信頼を損なうような行動を取るロータリアンがいるなど、信じがたいという人もいます。しかし、残念ながらそのような信じがたいケースが存在するのです。調査によると児童を対象とした性的加害者は、青少年に携わる成人の適正審査が甘く、保護が徹底されていない青少年団体に狙いを定め、子供たちと接触する機会をうかがうことが明らかになっています。

ロータリーがこのような加害者につけまかれることのないよう、RIはクラブと地区が青少年保護のための効果的な方針を定め、実施するのを助ける指針を設けました。この指針に関する資料は、虐待およびハラスメント (嫌がらせ) の防止の専門家の協力を得て、青少年交換プログラム用に作成されたものです。現在、各地区で地元の方針を定めるために使用されています。

ロータリアンは、どのような役割であっても青少年と関わる場合には、これらの指針を使用し、青少年プログラムを実施している地域社会の他団体とも分かち合うことが奨励されています。ロータリアンが職場において道徳的な行動の水準を設けたと同じように、ロータリーの主催する青少年プログラムもまた、虐待防止と保護の模範を示すことができるでしょう。

Ed Furb

エド・フタ (布田)

青少年と接する際の行動規範に関する声明

国際ロータリーは、ロータリーの活動に参加する全ての人々のために最も安全な環境を作り、維持するよう最善を尽くしている。全ロータリアン、その配偶者、ボランティアの人々は、接触する児童および青少年の安全を考え、肉体的、性的、あるいは精神的な虐待を防止して、彼らの身の安全を守るため、最善を尽くす責任がある。

地震で負傷したパキスタンの女の子を慰問する第3270地区ガバナーのムハンマド・ファイズ・キドワイ氏（中央）と、英国第1130地区元ガバナーのコリン・プライアント氏。



パキスタンのロータリアンが地震で破壊された町を再建

パキスタンおよびパキスタン側カシミール地方を襲った壊滅的な地震から数カ月経った現在、RI第3270地区はロータリーの津波救援活動をモデルとした再建に期待しています。「私たちは、長期的な活動に焦点を当てて計画をしています。スリランカのロータリアンが学校を25校再建する活動を行ったのと同様に、学校を再建して、設備を整えたいと考えています」と話すのは、地区ガバナーのムハンマド・ファイズ・キドワイ氏です。

2005年10月に多くの死傷者を出した地震の後、パキスタンのロータリアンは緊急の救援活動に重点を置き、食糧、医療品、防寒具とともに何千もの毛布、テント、寝袋を集めて配布しました。英国とアイルランドのロータリー・クラブは、切望されていた支援を18,000ものテント寄贈という形で提供しました。さらに、イスラマバードとペシャワールのクラブはテント村を設け、生活必需品を提供しました。

ウィリアム B. ボイドRI会長エレクトは12月上旬にこうしたテント村の一部を訪れました。「RIBIのロータリアンからパキスタンへ送られたテントやシェルター・ボックスによっ

てどれだけ多くの命が救われたことか、想像にも及びません」とボイド会長エレクトは後に語っています。「こうした対応を目にし、明らかに助けを必要としている状況をロータリアンが黙って見過ごすことはないのだと再び思い知らされました」。会長エレクトはまた、訪問中にショーカット・アジーズ首相と面会し、ロータリーの救援活動に対する賞賛の言葉を受けました。

パキスタンのクラブ・地区長期的救援活動を支援するため、ロータリー財団は災害救援口座を開設しました。1月12日現在、個人寄付と地区財団活動資金(DDF)を合わせて米貨123,000ドルが口座へ寄せられています。皆さまからの寄付は5月1日まで受け付けています。

再建にはこうした資金や更なる援助が必要とされています。ユニセフ(UNICEF)および世界保健機関(WHO)の協力の下、第3270地区は支援を必要としている重要なプロジェクトのリストを作成しました。リストの閲覧や現在進行中の救援活動についての情報は、ウェブサイト(www.rotary3270.org、英語のみ)をご覧ください。

ユニセフを通じて被災者を支援する米国のローターアクト・クラブ

マーレイ州立大学ローターアクト・クラブが行ったユニセフへの2005年募金活動は、一見これまで同クラブが行ってきた募金活動と何ら変わりはありませんでした。10月31日のハロウィーンの日、いつもと同じように、米国ケンタッキー州のクラブ会員は、ユニセフのキャンペーンのためにお菓子の代わりに募金をして回りました。

他の米国の多くの学生と同じく、ローターアクトたちは、世界中の恵まれない子供たちのために寄付する機会として、数十年間続いているこの寄付活動に参加しました。

ただし今年、米国のハリケーン「カトリーナ」、およびパキスタン北部とパキスタン側カシミールにおける地震の被害を受けた何百万もの子供たちの生活が、このユニセフの募金活動のような民間活動に直接かかっていることを彼らは強く感じていました。このことを心に、より懸命に活動し、会員以外のより多くの人々に援助を求めようと、皆の意欲が高まっていました。

「今年、当クラブはすべての活動においてより実り多い結果を挙げようと試みました」と、クラブの広報責任者のミッチャム・オーエンさんは述べます。ハロウィーンの衣装を身をまとい近所を回るだけでなく、ローターアクトたちはマーレイ大学の他の学生も誘い、2週間正式な寄付箱を地元近辺に設置し、さらに寄付金を集めるためにポップコーン売るなど、新たな活動も始めました。

「他の学生の協力を得ることで、より多くの家を訪れ、キャンパス内の他の組織団体の学生たちとの友人関係を築き、ローターアクトの会員候補者を勧誘し、より多くの資金を集めることができました」とミッチャムさんは説明します。

クラブは例年のハロウィーンより米貨550ドル多く募金したのみならず、寄付箱とポップコーンの売上によりさらに米貨375ドルを集めました。寄付総額は、南アジアの地震救援を含めさまざまな活動を支援するためにユニセフに寄付されます。

三地区合同で生まれたミズーリ州のRYLAプログラム

第6040地区、6060地区、6080地区(米国ミズーリ州)のロータリアンは、多地区合同RYLA(ロータリー青少年指導者養成)プログラムを形成しました。これら3地区による本プログラムの共同形成はまさしく「Good things do come in threes(幸運は3つ重なってやってくる)」ことを証明しています。

「私たちは、ロータリーへの情熱および青少年と共に活動するにふさわしい州内のロータリアンの溢れる活気と豊かな才能を活かしています」と、ノース・カンサス・シティ・ロータリー・クラブ会員のヴァレリー・アンダーソンさんは述べます。「しかし、これによりもっとも恩恵を受けているのは学生たちです」

費用の節約や統一した方針といった利点以外にも、州内の学生には多地区合同プログラムでの他では体験できない素晴らしい機会が与えられます「ミズーリ州は、地方と都市の生活様式の格差に悩まされていますが、RYLAによってこの壁も除かれます」とプログラム委員長であるアンダーソンさんは言います。

2005年4月、地区ガバナー3名が正式な同意書を作成、署名し、RI理事会へ提出しました。9月に、事務総長が理事会に代わって多地区合同RYLAプログラムの発足を承認しました。

4年を任期として地区ガバナーによって各地区から4名ずつ(地区RYLA委員長を含む)のロータリアンが任命され、12名から成るプログラム委員会が形成されました。

「友好と協力関係を築きながら、3地区が一致団結しています」とアンダーソンさんは語ります。ただ、変更事項がある場合は往々にして容易ではなく、手続きの変更がたびたび必要であったことをアンダーソンさんは振り返ります。

アンダーソンさん曰く、「私からのアドバイスは、根気強く、自分たちのプログラムに信念を持つことです。全体像である『学生のために奉仕し、ロータリーの力を分かち合う』という大前提を忘れないことです。」

昨年ウォーレンズバークのセントラルミズーリ州立大学行われた学会に参加するRYLAの参加者たち。



ロータリー親睦月間音楽家親睦グループのロータリアンがもたらすハーモニー

昨年、シカゴで行われたRI国際大会で友愛の家を訪れたロータリアンの皆さんは、きっと音楽家ロータリアンの国際親睦グループ(IFRM)のブースから流れる陽気な音楽をお聴きになったことでしょう。聴き入った人たちの多くは、気がつけばグループのレパートリーである人気曲に合わせて歌っていました。

音楽を通じたロータリー親睦活動の推進を使命とするIFRMは、習った経験の有無を問わず、プロでもアマチュアでも関係なく、楽器でも、歌でも、すべての音楽家を迎え入れます。自分の音楽を聞いてもらいたいという希望があるロータリアンであれば、誰でも輪に加わることができるのです。

「音楽を愛し、演奏や歌うことが好きなロータリアンを歓迎しています」とグループ委員長のスーザン・デュブリーさんは言います。「ただ音楽が好きでいいんです。参加することに意義があるので。」クラシック・ソプラノの訓練を受け、臨床心理学者でもあるデュブリーさんは、2001年サンアントニオの国際大会で親睦活動の存在を知りました。

現在ロータリアン500名近くに上るグループは幅広いメンバーを抱えています。「音楽教師もいれば、趣味という人もいます」デュブリーさんの目標は「自国文化中心的な米国の枠を出て、世界中の人々にうたえらる」ことです。6月のマルメ/コペンハーゲンの国際大会で、すべてのロータリアンに歌声に酔いしれてもらうための楽譜を書き上げることも約束しました。

ローターファクト

RI会員増強部のデータによると、2000-01年度から2004-05年度にかけて、905の新クラブを結成し、すべてのロータリー国または地域の中で首位に輝いたのはインドでした。



シカゴのRI国際大会の音楽家ロータリアン国際親睦グループのブースで音楽を披露するロータリアン。

年会費はわずか米貨10ドルで、グループの資金は主にメンバーによる演奏や合奏によって集められます。ハリケーン「カトリーナ」の影響で楽器を失った学生や音楽家を助ける目的で、グループはロータリー財団を通じて最近、使途推奨冠名基金を設立しました。

「ただ年会費10ドルを払うだけに留まらず、それ以上のところに視野を向け、行動を起こす人々に拍手を送ります」とデュブリーさんは言います。「そして今後も、才能溢れる音楽家がロータリー世界を通じて与えることのできる影響を広げたいと思っています。」

本親睦グループの詳細は、www.ifrm.org (英語) にてご覧ください。また、ロータリー親睦グループ・プログラムについて知りたい方は、www.rotary.org/languages/japanese/programs/fellowships.htmlをご参照ください。

難聴者を救うため、カナダのボランティアがウガンダで活動

開発途上国の国民全体に恩恵をもたらす、継続が可能な奉仕プロジェクトを支援することにかけては、ロータリーが最も優れた活動を行っている。ロータリー・ボランティアのアーウィン・スチュアート博士は確信しています。「トップダウン」式の方法では、ロータリアンが政府と協力して奉仕人員を教育かつ支援します。そして、専門知識を身に付けたこれらの人たちが、他の人々を教育し、支援するようになるのです。

耳鼻咽喉科医であり、第5040地区（カナダ、ブリティッシュ・コロンビア）の元ガバナーであるスチュアート氏は、ウガンダで予防できる難聴のための包括的プログラムを開始しました。このプログラムは聴力損失についての近代的な診断や治療方法について国内の医療関係者を研修するものです。5年間にわたり、ウガンダの保健・教育省と協力して活動を行うロータリー・ボランティア30名とロータリアン

以外10名の人員を指揮してきたのがスチュアート氏とロイス夫人でした。

3段階から成るプログラムは2005年2月に完了し、チームの研修は成功を収めました。

- 24名の保健省外科医に、近代的な耳科の側頭骨顕微鏡手術を研修
- 100名の教育省職員に、聴力検査による子供の聴力測定を研修
- 12名の技師に、快適な補聴器の製作を研修
- 50名の臨床医に、聴力損失を診断および簡単な治療法を研修
- 手術室担当看護師に、顕微鏡手術用機器の消毒および準備方法を研修
- 病院の技師に、手術用機器の修理または手入れ方法を研修

「こうした人々が他の人を研修できるようにまでなれば、国全体の人々に恩恵をもたらすことになります」と語るのはニューウェストミンスター・ロータリー・クラブ会員のスチュアート氏です。「私たちが行ってきたことは、最終的にウガンダの難聴を抱えた260万人に変化をもたらすと確信しています」

またボランティアは、太陽電池で機能する補聴器400個を手術の受けられない難聴者へ、基礎的な診断装置を臨床医へ、250台の中古コンピューターを聾学校へ、さらに医療研修資料、医療品、顕微鏡、教科書等を寄贈しました。



特殊な顕微鏡を使った耳科手術をウガンダの医療関係者に教えるアーウィン・スチュアート博士

フィジーの人々に健康をもたらす保健フェスティバル

ロータリー・クラブ主催の第2回フィジー保健フェスティバルは2005年9月上旬に幕を閉じ、登録した3,600人以上の人々が糖尿病、高血圧、心臓病の検査を受けました。その他にも多くの人が歯科、眼科、耳鼻咽喉科の治療を受けることができました。

90日間に渡るフェスティバル開催中、ラウトカ、ナディ、ナウソリ、スバ、タベウニの5地域の診療所にフィジー国中から人々が集まり、参加者には保健の認識と推進に関する教育資料や無料の老眼鏡が配布されました。各地域の診療所は、島の7つのロータリー・クラブ（ラウトカ、ナディ、スバ、スバ・イースト、スバ・ノース、スバ・ペニンスラ、タベウニ・アイランド、ザカウンドロベ）が協力して設けたもので、2004年第1回保健フェスティバルに参加していたのも彼らです。

フェスティバル委員長であり、第9920地区ガバナー・エレクトのワーウィック・プリース氏によると、フィジーの保健省は病院、保健センター、介護施設などの大変優れた基幹施設を持っているにもかかわらず、そこで必要な医療品や機器、医療スタッフ、予算が不足しているとのこと。フィジーのロータリーは保健省と協同し、これまで政府が苦勞を重ねてきた保健の各方面で援助を行っています」とプリース氏は言います。「これは政府、ロータリー、そしてフィジーの人々すべてにとって素晴らしいことです」

ロータリー財団マッチング・グラント2件からの合計138,767フィジー・ドル（米貨約81,000ドル）に加え、フェスティバルではオーストラリア、ニュージーランド、米国のロータリー・クラブからも寄付を集めることが



フィジー保健フェスティバルにて患者に老眼鏡を処方するオーストラリア・ニューサウスウェールズ州ウェスト・ワイアロング・ロータリー・クラブ会員のジル・ファネルさん

できました。プリース氏によると、歯科医、外科医、内科医、検眼医、眼科医をはじめ、島を訪れた何十名もの医療専門家（その多くはロータリアン）やボランティアたちは、無償で診療を提供してくれたそうです。ローター・アクター、インター・アクター、大人や子供も、群集の整理、歯科用吸水パイプの補助、会場の監督などを手伝いました。

8月下旬に開催予定の次回の保健フェスティバルにボランティアとして参加を希望される方は、スバ・イーストの会員であるReanu Ramani氏へEメール (reanu@rbf.gov.fj) にてご連絡ください。歯科医、検眼医、眼科医のボランティアが特に必要とされています。

カレンダー

- 4月 雑誌月間
- 6月 ロータリー親睦月間
- 11-14 RI国際大会（スウェーデンのマルメとデンマークのコーペンハーゲン）

各種締切日

- 4月15日 地区ガバナーが「会長賞申込書」を提出する締切日。ガバナーが「RI会員増強推進計画の表彰」のために創意的なアプローチを地区から1件提出する締切日。ガバナーが「協同プロジェクト最高賞」を提出する締切日。
- 5月8日 クラブが地区ガバナー・エレクトに「年次プログラム基金目標」を提出する締切日。
- 5月15日 ガバナーが「RI広報賞推薦書式」と「ロータリー財団功労表彰状推薦書式」を提出する締切日。ガバナーがガバナー補佐から「クラブ訪問報告用紙」を受取る締切日。
- 5月31日 クラブと地区が、「RI会員増強・拡大賞」に向けて会員データを提出する締切日。
- 6月1日 次期ガバナーが公式訪問の日程をクラブ・地区支援担当者に提出する締切日。ガバナーが「クラブ訪問報告用紙」をク

ラブ・地区支援担当者に提出する締切日。

6月15日 次期ガバナーが2006-07年度国際親善奨学生のための受入側ロータリアン顧問の任命についてロータリー財団に報告する締切日。

6月30日 地区指名委員会による2008-09年度ガバナー・ノミニの選出。2005-06年度ロータリー財団への寄付をRIが受理する期日。2007年規定審議会の立法案の提出。

7月1日 2007-09年度ロータリー世界平和フェローシップの申請書。半期報告およびクラブ人頭分担金支払の期日。

その他のお知らせ

- 地区補助金およびマッチング・グラントの事務業務は、7月1日に開始され2007年3月31日まで延長されます。
- RI理事会は、11月の会合でWCSプロジェクト交換に登録するクラブ/地区のプロジェクトの制限数を1クラブにつき1プロジェクトから5プロジェクトにまで増やすことに同意しました。プロジェクトの登録を希望するロータリー・クラブは、www.rotary.org/programs/wcs（英語のみ）で登録書式をダウンロードしてください。

意義深い言葉

「クラブのリーダーシップが活力と積極性と意欲に満ちたまとまりのあるものであれば、会員の維持率は高く、クラブは健全さを保つことができると実証されています。一方、クラブのリーダーシップが活力と積極性と意欲に欠けたまとまりのつかないものであれば、会員の維持率に問題が生じることになります」

— 元地区ガバナーのスティーン・ウィルコックス氏、サンディエゴでの2006年国際協議会における地区ガバナー・エレクトへの講演より

ケニアの水保全プロジェクトが関心の波を引き寄せる

オランダのアムステルダム・ノールト・ロータリー・クラブとケニアのナイバシャ・ロータリー・クラブが提唱した、現在進行中の水保全プロジェクトでは、ケニアでも降水量の少ないツァボ地域でダム、水路、用水路を作るための支援を行っています。

この活動の始まりは、オランダのウォーターヴェルド・コンサベーション・トラストの協力を得て、大規模なダムを建設したことです。ロータリー財団マッチング・グラントからは米貨9,827ドルが授与され、2つの提唱クラブとトラストがプロジェクトの管理を支援しています。

「このダムの機能は2回の雨季を通じて実証済みです」と報告するのは、プロジェクト連絡担当者のマルコ・プルクスマ氏とアルヨ・ヴァン・デル・ホルスト氏。それぞれナイバシャとアムステルダム・ノールトの会員である両氏が共同で報告を行っています。「今では地域で十分な水を得ることができます」。

プロジェクトでは、水源が排水によって汚染されないようにするための方法や衛生について住民に教えるとともに、水の使い方や地下に貯水池を建設することについても情報を提供しています。第1580地区（オランダ）からは、ケニアの他のロータリー・クラブやエチオピア、タンザニア、ウガンダのクラブも参加できるよう、同様のプロジェクトが提案されています。第1580地区のロータリアンはまた、浄水システムや維持可能な発展についての関心を高めるため、オランダの各大学を訪れて発表展示を行いながら、その一環としてワークショップやセミナーにも参加しました。

「本プロジェクトや水に関連したその他のプロジェクトを通じて、ロータリー・クラブにおける浄水の貯水に関する認識が飛躍的に高まりました」とプルクスマ氏とホルスト



ケニアにて実施された水保全プロジェクトの一部としてダムの建設を手伝う女性

氏は述べています。「水保全活動グループが発足した一方で、ロータリアンの集まりは、国際的な水保全プロジェクトに参加してさらなる発展を促すため、第1580地区全体のロータリー・クラブを突き動かしているのです」

職業プロジェクト、フィリピンのストリート・チルドレンに希望を育む

フィリピン、ダバオ市の見捨てられた子供たちが、職業訓練の一環として菜園を耕し、観賞植物の栽培法を学びながら、生産的な将来に向かって成長しています。ダバオのワリング・ワリング・ロータリー・クラブとカナダ、アルベルタのカルガリー・チヌック・ロータリー・クラブが提唱するこのプロジェクトの恩恵を受けているのは、ボーイズタウン・ダバオ孤児院の高校生男子です。

「このグリーンライフ・フォー・ストリート・チルドレン・プロジェクトは、ロータリー財団のマッチング・グラントの支援を受けて、10代の少年たちに『自立し、生産的な社会の一員となる技能』を身につけさせることを主眼としています」と語るのは、プロジェクトを担当しているワリング・ワリング・クラブ会員、エステラ・マリベル・タン・ビレラさんです。

プロジェクトには、孤児院の所有する広大な敷地に灌漑システムを導入し、土を敷き、園芸用具を入手し、苗を植えるという作業のほか、野菜を育て、刈り入れる方法を少年たちに教えることも含まれました。植物栽培者協会、フロリカルチャー・インダストリー・オブ・ダバオ社も観賞植物の栽培と市場開拓に関する専門的な技術を提供しています。ワリング・ワリング・クラブは、引き続き少年たちに研修を提供し、施設を維持できる収入をもたらすため、まもなくこのプロジェクトをボーイズタウン・ダバオを運営するウェルフェア・アクション・ファウンデーションに引き渡す予定です。

地元のロータリアン、ローターアクター、インターアクターは、プロジェクトの各段階の実行と監督を手伝いました。カルガリー・チヌック・クラブは、同プロジェクトに米貨1,000ドルを寄付したほか、世界社会奉仕委員会を通じて国際支援の調節にあたりました。

「プロジェクトの技能訓練から、30人の男子が直接恩恵を受けました」と、タン・ビレラさんは言います。「少なくとも60人の男子は収入が得られるようになり、40世帯の恵まれない家庭の子供たちが、義務教育を受けると同時に、住まいと食事と衣服を提供してもらうことができます」



ルビー・パワーズさん

スペイン滞在中、国際親善奨学生として、バルセロナ・ヨーロッパ・ロータリー・クラブのジョージ・ワンダーリング2004-05年度会長とクラブ・パナーを交換するルビー・パワーズさん。

専門家に聞く



「平和および紛争解決の分野における国際問題研究のためのロータリー・センター」と「ロータリー平和および紛争解決研究プログラム」は、どう違うのですか。

以下は、レイ・クリンギンスミス管理委員会副委員長の答えです。

国際親善奨学金や研究グループ交換（GSE）などのロータリー財団の教育的プログラムは、国際理解を推進する目的の下に設置されたものです。およそ10年ほど前からロータリアンは、紛争解決を通じて世界平和を達成するために、より集中的なプログラムを提供することに関心を向け始めました。

この関心が結晶して開発されたのが、「平和および紛争解決の分野における国際問題研究のためのロータリー・センター」です。同センターは世界中の7つの提携大学に設置され、平和研究、紛争解決、国際関係分野の修士課程における研究の場を提供しています。留学するロータリー・センターによって長さは異なりますが、平和フェローには15～24カ月間、授業の他にインターンシップ、実地研究、その他各自の職業開発を強化する諸活動を含む専攻分野の実地体験に携わることが義務づけられています。

ロータリー・センター・プログラムがいよいよ軌道に乗り、成果を挙げ始めたことを受けて、管理委員会は「ロータリー平和および紛争解決研究プログラム」という別の試験的プログラムを確立しました。この短期認定プログラムは、さまざまな分野で専門職務に従事する人々に平和と紛争解決の技能を教授するものです。

本プログラムと提携するのは、タイ、バンコク随一の教育機関として知られるチュラロンコン大学です。2006年7月より1年に2回の3カ月間コースが開講され、各コースの定員数は30名となっています。コースは英語で行われ、実践的な現場研修も含まれます。

この新設のプログラムに関する詳細は www.rotary.org/foundation をご覧いただくか、コーディネーターのTammy Chiemmongkoltip まで電話（1-847-866-3325）あるいはEメール（tammy.chiemmongkoltip@rotary.org）でお問い合わせください。

ロータリーからもらった世界への切符に感謝する国際親善奨学生

ルビー・パワーズさんは、ロータリー・クラブに入会していないものの、笑いながら自分のことを「ロータリー人」と呼びます。

「高校生の時インターアクトに入り、それから2回の夏休みにRYLAに参加しました」と米国テキサス州サンアントニオ出身のパワーズさんは振り返ります。高校の最後の年には、交換を終えた青少年交換学生による発表会に参加し、一つの類似点に気がつきました。「皆決まって『人生最高の年でした』と言うんです」。それから間もなく、パワーズさんは、ベルギーのベルビエで過ごす一年間のプログラムのための出発前オリエンテーションに出席することとなりました。

自身がローターアクト・クラブ会長であったテキサス大学オースティン校を卒業後、パワーズさんは次のロータリーの冒険への準備ができていました。2004年夏、彼女は国際親善奨学生としてスペインのバルセロナへと飛び立ちました。奉仕プロジェクトの計画も何もなく、到着後すぐにその機会は訪れました。

「現代には珍しい代謝障害を抱える子についてのEメールが届き、その治療に成功した唯一の医師がバルセロナにいたということを知りました」とパワーズさん。滞り場所が必要な家族のために誰に援助を求めればよいか、彼女は知っていました。それは、彼女のホストだったバルセロナ・ミレニアム

・ロータリー・クラブでした。気がつくとならば、病を患う子供を持つ世界中の家族の連絡係となっていました。

この病気と治療を支援するマヌエラ・マルティネズ財団について学ぶにつれ、パワーズさんは複数のクラブと話をし、6月には募金のための夕食会を開きました。彼女にとって同財団は個人的なプロジェクトとなったのです。

帰国後、法律学校で1年目を迎えた今、パワーズさんは、国際親善奨学生の機会を与えてくれたロータリーに感謝しています。「ここで大切なのは、成績で優を取り、部屋に閉じこもって勉強ばかりすることではありません。外に出て、人々の橋を渡し、学び、世界をつなぐことです。このような活動に従事できることが本当に好きなんです。」

マヌエラ・マルティネズ財団については、www.martinezfoundation.org（英語）をご覧ください。

ジャケットのオークションにより財団に米貨5,000ドルの寄付

「私の体型に近いサイズだと思んですが…」と言うのは、3カ月間にわたるサイレント・オークションを制してカール・ヴィルヘルム・ステンハマーRI会長のリバーシブル・ジャケットを獲得したロータリアン、ブルーノ・ギジさんです。「合わなかったら、仕立て屋に直してもらうまでです。痩せ型というわけじゃありませんからね」

イタリアのリミニ・リビエラ・ロータリー・クラブの元会長であるギジさんは、ブルーとゴールドのジャケットを米貨5,000ドルで落札しました。ステンハマー会長はこのジャケットを2005年RI国際大会で自らモデルとなり披露した後、ロータリー財団年次プログラム基金のために、www.rotary.org のオークションに出品しました。

これまで財団のために長い間寄付を行ってきたギジさんは、そのお返しを受け取る喜びを隠しきれません。ギジさんはマリアルバ夫人と共に大口寄付者であり、また、アーチCクラフ・ソサエティの創設会員です。ご夫妻は、ヨーロッパの小国、サンマリノにお住まいです。

しかし、このオークションで仕留めたジャケットを単なる記念品にとどめておくつもりなどギジさんにはありません。新しいジャケットを着て歩き、全地区で財団を推進する一助とするもくろみです。ところで、表と裏のどちらがお気に入りなのでしょうか。その答えは、「ブルーのほうがエレガントですよ」でした。



RICHARD FRANCO

エジプトとニジェールがポリオ蔓延国から外れ、残るは4国に

エジプトとニジェールは、原生ポリオ・ウィルスが12カ月以上蔓延していない事実をもって、世界ポリオ撲滅推進計画においてポリオ蔓延国ではなくなったことが最近宣言されました。

これで蔓延国は、これまで原生ポリオ伝染の阻止に成功していないアフガニスタン、インド、ナイジェリア、パキスタンを残すのみとなりました。

発表によると、ポリオ感染地域において、今年から単価経口ポリオ・ワクチンが使用されることになりました。第1種と第3種のポリオ・プラスを駆逐するために、個々のウィルス株に有効な単価ワクチンが使用されます。

「ポリオは我が国において長い歴史を持つ風土病でした」とエジプトのハテム・モスタファ・ELガバリ保健大臣は述べています。「しかし、現代の最先端の手段によって、古代エジプト王朝時代から私たちを苛んできたポリオにうち克つことができたのです。」

エジプトやニジェールでの成功は、アフリカでのポリオ蔓延を駆逐すること、ならびに特別な地域を対象とした単価ポリオ・ワクチンを迅速に導入するという2004-05年度の

集中的な活動の結果です。効果的な予防接種策や単価ワクチンの使用により、2005年第4四半期のインドとパキスタンのポリオ症例数も、前年比で半数以上減少しました。

「これらの新たな手段の効果を十分に引き出すためには、ナイジェリア政府があらゆるレベルにおいて尽力し、すべての児童が予防接種を受けることができるようにしなければなりません」とナイジェリア、カノ出身のジョナサン・マジアベ元RI会長は語ります。ナイジェリアのポリオ症例の90パーセントは、全国37州のうち8州のみに集中しています。

発表によると、残る4つのポリオ蔓延国での大規模な予防接種に加え、今年も、単価ワクチンを使って、ポリオ・ウィルスが飛び火した8国において、一大推進計画を実施する必要がありますとされています。

過去10年間にロータリーが主導して行ってきた数々の予防接種キャンペーンによって、エジプトは原生型ポリオ・ウィルスによる伝染から逃れることができたのです。

中東問題を現場で学んだ米国の平和フェロー

中東地域で政治的イベントが次々と起こる過渡期に、カーラ・ファンティニさん（米国バーモント州）が現地を訪れることができたのは2004-06年度ロータリー世界平和フェローシップのためでした。

「イスラエルのガザ地区解放と時を同じくして中東に滞在できたことは信じられないくらい幸運なことです」と語るファンティニさんは、東京の国際基督教大学にある国際問題研究のためのロータリー・センターで学んでいます。「私は、一般の報道以外にも地域からの情報を取り入れることができるようになりました」

バーモント州のブラトルバラ・ロータリー・クラブから派遣されたファンティニさんは、2005年8月にフェローシップの専攻分野の実地体験の一部としてシリア、ヨルダン、イスラエルで開催された日本中東学生会議へ出席し、現地に滞在しました。ここでは、紛争地域における民主主義、宗教的原理主義、性別と移民の問題、報道の役割などについて

政府関係者やその他の専門家によるワークショップに参加したり、講義にも出席しました。

フェローシップ留学が始まって以来、青少年平和教育におけるプログラムが豊富に提供されていることを知ったファンティニさんは、中でも自分が仕事をしたいと希望する具体的な分野は何なのかを絞り始めたと言います。そして専攻分野の実地体験で訪れたシリア、ヨルダン、イスラエルで数多くの人々と接し、これからの研究でも彼らと連絡を取り続けたいと話しています。

「平和教育者として感じるのは、私が中東を訪れる前に抱いていた恐怖と緊張こそが、現地を訪れなければならなかった、そもそもの理由だということです」と話すファンティニさん。「この地域で起こる紛争の複雑さを理解するためには、シリア、ヨルダン、イスラエル、パレスチナ地区という地域を直接体験しなければならなかったのです」



中東滞在中に地域紛争についてのワークショップに参加し、シリアの古代バルミア遺跡も訪れたロータリー世界平和フェロー、カーラ・ファンティニさん。

寄付者と受益者双方の人生を変える財団プログラム

研究グループ交換 (GSE) やマッチング・グラント、その他のロータリー財団プログラムに感銘を受けたジェリー・ウィルフォードさんと夫人のゴールディーさんは、財団の恩恵が末永く人々の生活にもたらされるようにと、多額の寄付を行いました。先ごろ財団の恒久基金へ大口の寄付を行ったウィルフォード夫妻は語ります。

2005年10月25日に開かれたウィルフォードさんのアーチC.クランフ・ソサエティ入会式では、ジョナサン・マジアベ元RI会長が次のように述べました。「ウィルフォード元ガバナー（第6040地区）は、1994年にオランダに行くGSEチームのリーダーとして選ばれました。この人生を変えるような体験を通じて、ウィルフォードさんは国際性豊かなロータリーのすばらしさにいたく感動し、自分のクラブ（米国ミズーリ州、チリコス）や地区においてもリーダーの役割を果たしていこうと決意したのです」

この日はウィルフォードさんと共に、同じくミズーリ州出身のリンおよびジャッキー・ハーモン夫妻が入会したため、正式に2005年ミズーリ・デーと称されました。ハーモン夫妻は、財団の恒久基金への寄付を通じて、デュエーンR.スターリング国際親善奨学金を寄贈しました（2005年10月号のロータリー・ワールド参照）。

財団創設者にちなんで名付けられたアーチC.クランフ・ソサエティは、米貨250,000ドル以上の寄付を行った大口寄付者を称えるものです。

「私たちはロータリー財団が支援するプログラムを信じているのです」と言うウィル



ジェリー・ウィルフォードさんとゴールディー夫人

フォードさんは、ゴールディー夫人と共にオーストラリア、ブリスベンで開かれた2003年RI国際大会で聞いた講演に心を打たれ、それがきっかけで一層財団を支援していきたいと思うようになったと付け加えました。

その講演者、ジェンマ・シシアさんが、毎月の給料から少しずつ貯金したお金にオーストラリアの家族や友人、ロータリアンからの寄付をあわせて、タンザニアに140人の児童のための小学校を建てた話を、ウィルフォードさんは詳述しました。また、財団のマッチング・グラントがこの小学校に浄水システムを提供しているということです。

「この一人の若い女性がこれだけ多くの人々の生活を改善し、希望をもたらしたこの話は、まさに驚きというほかありません。私たちは与えられたものによって生きていますが、与えることによって初めて本当の意味で生きていけると言えるのではないのでしょうか」

ロータリーの「多大なる影響」に感銘を受けた夫妻が奨学金を寄贈

米国コネティカット州ウェストハートフォードのロバート・ダンさんは、英国バーミンガム大学の1951-52年度ロータリー財団フェローとして、自国の教育手順との関わりを調査するために、英国、ヨーロッパ、南アフリカの中等学校（日本の中・高等学校）を訪れました。

ウェストハートフォードのウィリアムH.ホール高等学校校長として28年勤め上げたダンさんにとってイーストハートフォード・ロータリー・クラブにより派遣された当時の体験は、中等学校における広範な実務のための糧となりました。ダンさんは、レーガン政権において国家教育委員会で活動するかたわら、旧ソ連および東欧諸国への国家教育代表も務めました。また、ウェストハートフォード・ロータリー・クラブに長年所属しているダンさんは、1990年に「退職」を迎え、その後5年間韓国のソウル・インターナショナル・スクールの副校長を務めました。

グラディス夫人は、キャリアを通じて、ニュージャージー州ウェストフィールドのYMCAの十代青少年のためのプログラム責任者や、コネティカット州ニューヘブンのYMCA職員、ウェストハートフォードで小学校教師や中学校の生徒指導員を務めました。退職した1990年からは、夫が勤めるソウル・インターナショナル・スクールで、入学担当主任、試験官長、クラス分けコーディネーターを引き受けています。

最近、ダン夫妻はグラディスB.アンド・ロバートE.ダン国際親善奨学金を設立するた



グラディスB.とロバートE.ダン夫妻

めにRIのロータリー財団に寛大な寄付を行いました。夫妻からの寄付は、ロバート・ダンさんの地域社会と国際社会への教育的・専門的な進展と奉仕に対して財団はじめイーストハートフォードおよびウェストハートフォード・ロータリー・クラブが果たした重要な役割への感謝が表されたものです。2007-08年度から、イーストハートフォードおよびウェストハートフォードの両クラブにより推薦される候補者に毎年、奨学金が授与されます。

「ロータリーは私たちの生活に前向きで多大な影響を与えてくれました」と、2005年10月に財団で行われたアーチ C.クランフ・ソサエティの夫妻の入会式典で、ダンさんは述べています。「ロータリーは必ずや将来に私たち夫婦の生活の一部となると信じていました。」

映画作りのために生徒を乗せて走る スタジオ兼用バス

米国カリフォルニア州のフラートン・サンライズ・ロータリー・クラブでは、映画産業に手を染めることになりました。

同クラブは昨年、フラートン小学校地区へ30,000ドルの寄付を行い、使用していないスクールバスを動くデジタル・アート・スタジオに改造し、2,800名余りの生徒を映画制作者の卵に変身させました。

略してアーツLABと呼ばれるこのアーツ・ラーニング・アクティビティ・バスには、ノートパソコン16台、デジタルカメラ8台、ビデオカメラ8台、LCDプロジェクター1台とスクリーン1台、その他のビデオ制作機材が搭載されています。2名の美術教師2名を乗せたこのバスは、17校ある地区内の小学校を1校につき10日間で回り、教室での学習を補強するデジタル・アートの技術を教えるのに大活躍しています。

「デジタル時代を生き抜く今の子供たちにとって、視覚的技術の習得が重要になってきています」と地区の視覚・舞台芸術コーディネーターを務めるローラリン・エシュナーさんは言います。

「子供たちはあつという間にマルチメディアの魅力のとりこになり、映画作りの面白さに引き込まれていきます。教育者としての私たちの狙いは、子供たちが自然に興味を抱いていることを教育に組み込もうというものでした」

これは地区で2台目のLABで、初のLABはAll the Arts for All the Kids Foundationが地区の児童をアートに参加させるという使命の下に財政支

援を行って実現しました。目標は最終的に地区の全生徒11,000名を対象に巡回できるバスの一団を持つことです。

2台目のバスを改造し、設備を完備させるための資金繰りとして、フラートン・サンライズ・クラブは、22あるバスの窓を1,000ドル単位で売りに出すことにしました。各窓の下にはそれぞれの寄付者の名前の刻まれた飾り板が取り付けられました。2005年9月23日に催された同クラブの募金行事で、このバスの除幕式が行われました。

「うちのクラブでは青少年のためのプロジェクトを支援するのが伝統となっています」と、2004-05年度クラブ会長のアラン・オルソンさんは言います。「ですからこのプロジェクトも当然のことのように思えましたね」



南カリフォルニアの小学生のために、スクールバスをデジタル・アート・スタジオに変身させる作業に取り組むフラートン・サンライズのロータリアン

一口メモ

去る10月、第3480地区(台湾)が、貧困にあえぐガンビアの子供たちのためのプログラムを支援するため、100万ニュー台湾ドル(米貨29,860ドル)の寄付を行いました。贈呈の席には、ガンビアのジャメ大統領と台湾のアネット・ルー副総統が顔を揃えました。ルー副総統は、この寄付によってガンビアの恵まれない子供たち1000人の教育プログラムが実施できると語りました。寄付への感謝の印として、ガンビアのバラ・ガエ外務大臣から第3480地区のナイ・リャン・チャン・ガバナーに表彰状が贈られました。

ドミニカ共和国に住むエニエール・ガルシアさん(16歳)と妹のチャイレンさん(8歳)は、骨形成不全症という骨がもろく折れやすいために奇形が生じる衰弱性疾患に冒されています。この姉妹を訪問したカナダ、オンタリオ州、ウィットビー・サンライズ・ロータリー・クラブのリンダ・ラネイ元会長は、心を動かされ、クラブで何とか彼女たちの力になれないものかと考えました。その結果、クラブは大規模な募金活動を行った後、ガルシア一家をカナダに招き、姉妹をモントリオールのシュライナーズ・ホスピタル・カナダに入院させました。そこで姉妹は骨形成不全症の治療に専念することになりました。治療後も6~8週間のリハビリ期間が見込まれており、その間もロータリアンたちは、その費用をまかなうために募金活動を続けました。

ナミビアでは、モスバツハ・ブーチェン・ロータリー・クラブ(ドイツ)ならびにオジワロンゴ・ロータリー・クラブ(ナミビア)からの寄付により、古い軍隊用兵舎が病院、学校、孤児院に改造され、近々、結核病棟も完成の見込みです。孤児の中には木の下に捨てられているのを発見された子供や、母親に面倒を見ることを放棄された子供もいます。これらの孤児の多くが、結核の治療を緊急に必要としています。10月に建設が開始された病棟は、完成すれば15人の患者を収容できる規模です。

最新出版物の紹介

「クラブ・ロータリー財団委員会の手引き」(155-JA)は、クラブからロータリー財団への支援を推進し、クラブ・ロータリー財団委員会の役割と委員長の責務について概説しています。無料。

「GSE Team Poster (GSEチーム・ポスター)」(077-EN)は、研究グループ交換プログラムを広報するためのポスター(46x61cm)です。(英語)米貨3ドル。

「国際問題研究のためのロータリー・センター・パワーポイント」(049-MU)は、ロータリー・センターの歴史、目的、資金、申請方法をはじめとした、プログラムの内容を説明するCD-ROMです。ロータリアンおよびロータリアン以外の方にもご覧いただけます。1回の注文ごとに数量限定。無料。

「ロータリー国際プロジェクトの映像集」(920-MU)は世界中からの映像や画像を集めたもので、クラブや地区がそれぞれの人道的奉仕に関するビデオを作成するにあたり利用することができます。また地元のテレビ局での放送用として各自でビデオを製作する際にも、画像を使用することができます。DVDデータ・ディスク(通常のDVDプレーヤーでは再生できません)。米貨15ドル。



「Rotary International, Humanity in Motion II (国際ロータリー、人類のために活動するII)」(609-EN)は、公共イメージ・キャンペーンの第2部として、教育的プログラムを通じて平和を推進するロータリーの活動に焦点を当てています。印刷用としてすぐに使用できる広告、インターネット用バナー、屋外広告のデザイン等を収録したCDと、クラブが地元メディアを通じて放映するためのテレビ用公共奉仕広告を収めたDVDが含まれます。無料。

「ロータリー平和および紛争解決研究プログラム・パンフレット」(105-JA)は、タイ、バンコクのチュラロンコーン大学で開設された短期認定平和研究プログラムの概要やコース内容を紹介するものです。タイ語でも発行されています。無料。

「ロータリー世界平和フェローシップ・パンフレット」(084-JA)は改訂された2色のパンフレットで、候補者やロータリアンを対象に世界平和フェローシップの目標、条件、財源、申請に関する情報を提供するほか、国際問題研究のためのロータリー・センターを紹介(082、083と併せてご注文ください)。数量限定。無料。

「ロータリアン・ビデオ・マガジン第1巻第2号」(506-MU)は、世界中のロータリアンによる業績やプロジェクトを紹介するDVDシリーズの第2弾です。今回はロータリアンであるドリサ・シモンズさんの物語や、米国の子供たちに数学や科学を教える際の実践的な教授法、ロシアの孤児を対象とした無料の歯科治療、タイ山岳部の子供たちのための安全な避難所作り、2005年RI国際大会の様子などを紹介しています(英語の音声に日本語の字幕付)。DVD、米貨15ドル。

ご注文は、RI出版物注文業務課(RI Publications Order Services)まで電話(1-847-866-4600)、ファックス(1-847-866-3276)、またはEメール(publicationsorder.services@rotary.org)にて受け付けております。国際ロータリー日本事務局またはオンライン・カタログ(www.rotary.org)でもお求めいただけます。すべてのご注文の発送は、お支払い後となります。

双子クラブ、石細工の収入により 公共トイレを設置

ロータリー百周年年度中、チリのコンバルバラ・ロータリー・クラブは、米国イリノイ州にある双子クラブのガリーナ・ロータリー・クラブに、公共トイレを新設するための募金活動を支援するよう求めました。両クラブは、このような公共施設がコンバルバラの中心街にぜひとも必要であると判断しました。

3,500人が生活する貧窮の町、コンバルバラには、周辺地域から、当地の生産品を購入しようと訪問者が訪れます。地元の人々が高価な石礫石を使って、石のコップをはじめ、装飾品、他の家財道具などを作り、これらを町の広場で売ります。石と石細工は、プロジェクトに重要な意味を持つ募金活動の品物となりました。

ガリーナのロータリアンは、米貨500ドル相当のコンバルバラ細工を購入し、トイレ設置のために地元ガリーナで2,000ドルで売りました。また、第6420地区(米国イリノイ州)から米貨4,000ドルの寄付が寄せられ、ロータリー財団からは5,000ドルのマッチング・グラントがプロジェクトに授与されました。

昨年完成した6.1平方メートルのトイレには、男子用と女子用があり、女子用トイレには幼児のおしめ交換台も設置されました。鮮やかなピンクと青に塗られた構造によって、町の中心が美化されました。11月、2004-05年度クラブ会長のカーター・ニュートン氏とクラブ会員のボブ・ウェールレ氏は、落成式に出席するためコンバルバラを訪れました。

「この町を助け相互関係を意義あるものにすることがクラブの目標でした」とニュートン氏は語ります。「ここで得た経験がまさしくロータリーそのものなのです」



新しく設置された公共トイレの最終仕上げに取り組むチリ、コンバルバラの労働者たち。

三二情報

32,462	ロータリー・クラブ数
1,209,790	世界のロータリアン数
168	ロータリーのある国
8,019	ローターアクト・クラブ数
184,437	ローターアクト会員数(推定)
10,562	インターアクト・クラブ数
242,926	インターアクト会員数(推定)
6,045	ロータリー地域社会共同隊(RCC)数
139,035	RCCメンバー数(推定)
2005年12月31日現在	